

「広報の絆」

第1回 広報の力

No.520 2011年10月号

表紙は「復興祈願祭」と銘打たれた小鎚神社例大祭の神輿。復興への願いと大槌びとの意地が感じられる

復興へー。と題し、被災から復興に向けて一步一步歩んできた町民の姿を特集。自衛隊の撤収セレモニーでの涙、仮設校舎開校式での子どもたちの笑顔など、町民の表情、感情を写真で伝えた



今からちょうど10年前、東日本大震災津波の影響によりお知らせチラシの形で発行していた「広報おおつち」が、従来の冊子の形で復刊しました。再開第1号のページをめくりながら、当手を振り返ります。復活号の巻末記事と同じタイトルのこのコーナーでは、広報紙を通して人と人とのつながりに触れていきます。

町外の購読者へ向けた広報紙。郵便局内で水に濡れながらも、ビニール詰めされて読者へ届いた。しわになった広報紙を見た全国の読者から、励ましのメッセージが寄せられ、被災地で奮闘する人々を後押しした



こんなに大きくなりました

この号で、およそ半年ぶりに広報の出生欄に赤ちゃんの名前が掲載されました。この時生まれた平野楓歩さんは、10歳になりました。



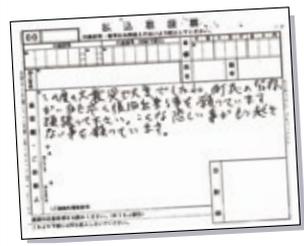
平野 楓歩 さん(右)

算数が得意です。ドッジボールや走ることが大好き。これからやってみたいことは「料理」です。

平野 圭 さん(左)

世の中が暗い雰囲気の中、両家にとって初孫でもある娘の誕生は、被災した状況を忘れるほどの喜びでした。広報を見た人にとっても明るい話題になってくれたんじゃないかと思えます。

広報の絆 広報の力



震災の日、大槌町役場から集荷された郵送用の広報は、水がかかって濡れたにもかかわらず、配達され町外に届きました。これに対し、各市町村職員や町外にいる人から、「うれしかった。」「感動した。」「大変だろうけどがんばってほしい。」などの声が役場に寄せられました。大槌町の情報が外から何も分からなかった震災直後、この広報が、様々なメッセージとなって全国にいる読者のもとへ届いていました。役場の職員も、帰ってきた声に感動し、広報紙による絆に励まされました。復興へ向かう大槌の大きな力となる広報をこれからもお届けしていきます。

今回振り返った 2011年10月号は
こちらから全ページがご覧になれます。

